

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100204		
法人名	有限会社 ゆたか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ゆたかの郷		
所在地	宮崎県宮崎市高岡町65-4		
自己評価作成日	平成27年 2月5日	評価結果市町村受理日	平成27年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;jirovosyoCd=4590100204-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;jirovosyoCd=4590100204-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりのペースに合わせて支援している。無理強いせず、本人の訴えや表情を観察しながら、対応している。施設に入居したからといって、なかなか自由に外に出られないのではなく、いつでも外出できるようにしている。ドライブや散歩にはよく行っている。ご家族が面会に来られた際は、必ず、状況報告を行っている。ご家族や県外から面会に来られたりした際は、必ず、一緒に写真を撮って、その場でお渡しするようにしている。ご家族と協力して、故郷訪問を行っている。施設の行事に地域の方を招いたり、地域の行事に利用者と職員と一緒に参加している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

両隣に有料老人ホームを併設しているこのホームは、開設7年目を迎える。管理者と職員は、法人の理念とは別に「ゆったりと穏やかな生活」「笑顔で」「家族の想い」を理念に掲げて、ミーティングや会議の中で理念を振り返り、理念に基づくケアを展開している。「海が見たい」「花見に行きたい」「家に帰りたい」など、利用者本位に利用者の思いが叶うよう家族の協力を得ながら、いつでも外出できるように支援している。また、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物たたみなど、昔取った杵柄を引き出ししながら、利用者が笑顔でゆったりとした生活が送れるように見守り、職員も喜怒哀楽を共にしている。協力医療機関と連携して看取りの実績もある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合っつくりあげた理念で、職員が理念を意識してケアが行えるよう、日々のミーティングで輪唱している。	法人の理念とは別に、分かりやすい言葉で作らあげた理念を毎日のミーティングの中で唱和し、理念に基づくケアの実践につなげている。更に、毎月の職員会議の中で、理念に基づくケアが実践できているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事などに地域の方を招いたり、地域の行事に利用者様と職員が参加し、交流を図っている。	ホームは3つの地区と隣接し、敬老会や夏祭りに数多く参加している。クリスマス会には保育園児が来訪し、利用者に変喜ばれている。中学生の職業体験も受け入れ、地域と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議などで、地域の方と利用者様が直接交流を図る事で、認知症の人を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の際に会議を行い、出来るだけ一人でも多くの参加者が増えるようにしている。頂いた意見は話し合い、サービスの向上につなげている。	敬老会やクリスマス会などのホームの行事に合わせて、定期的に運営推進会議を開催し、そこでの意見を運営に反映させ、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて相談し、助言や指導を頂いている。	ホームの実状や相談事などを運営者が主に行っている。市の主催する身体拘束やケアプランの研修会などに参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修参加・勉強会を行っている。家族から要望があってもできない事は伝え、他に対応策がないかを話し合い、理解して頂く。	身体拘束について、外部研修受講者がホームの勉強会で伝達研修を行い、身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修参加・勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ゆたか全体の職員会議や勉強会を行い、必要時にアプローチできるよう知識を身につけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず御家族と顔を合わせ、十分な説明を行い、納得してから契約を行っている。一方的に話をせず、御家族の話を十分に傾聴するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やカンファレンスなどで意見を聞き、対応している。面会時には御家族とコミュニケーションを図り、お互いが話しやすい関係作りを行っている。	家族の来訪時にはお茶を出してコミュニケーションを図るなど、さりげなく意見を聞きやすい雰囲気を作り、直接聞く取組をしている。家族の意向や意見は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや勉強会などで意見を出している。出た意見は話し合い、改善策を立てている。	運営者は職員会議に参加して職員の意見を聞いている。人事考課を取り入れて職員のやる気を引き出し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れている。お互い何でも話せる働きやすい環境作りにも配慮している。職員が一人で抱え込まないよう状況を見て、声掛けしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加できるよう計画している。認知症全国大会にも、毎年参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や連携病院での勉強会に参加し、他施設と情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、少しでも不安なく入居できるように対応している。コミュニケーションが難しい時は、家族から生活歴や本人の好むものを聞き、情報収集している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や事前調査で家族の話を十分に聞き、情報を共有しながら、信頼関係作りに努めている。出来る限り、要望には応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集・アセスメントを行い、本人と家族が必要としている支援を一緒に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、家事をしたり、生活を共にすることで本人の出来る事・出来ない事をみつけ支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ず、良い事も悪い事も報告するようにしている。お互いの様子を見て職員が間に入ったり、一緒にお茶を飲みながらゆったりとした雰囲気でも過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連携を図り、故郷訪問を行っている。出来る限り、本人の要望や行きたい所へは行けるよう対応している。本人が使っていた物や馴染みのある物は、持ってきて頂くように話している。	利用者がこれまでに大切にしてきた家族や友人に手紙を書いたり、来訪してもらったり、美容室など関係が途切れないように支援している。故郷訪問は家族の協力の下に、行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮し、職員が間に入って、良い関係で共同生活できるように支援している。お互い支え合いながら、生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた後も家族との関係を続け、他施設に移った後、本人の生活情報をしっかりと申し送りし、少しでも不安なく移り住めるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で、希望や思いを引き出している。家族からも話を聞いて、その人らしく生活できるよう支援している。	日々の関わりの中で、しぐさ、動き、家族の名前を呼んだり、探す動作から判断して、家族に来院してもらったり、意向に答えられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、面会者から情報収集している。入居時には、家族にセンター方式の一部を渡し、これまでの生活歴や経過を書いて頂くよう依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づいた事や出来る事・出来ない事は記録に残し、職員全員が周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の要望・意見を聞き、ケアカンファレンスで担当を中心に、全員でケアプランを作成している。	利用者、家族本位の介護計画を必要な関係者と話し合い、アイデアを生かしたケアプランを作成し、毎月モニタリングを行っている。状態に変化が起きた時には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を見て、情報の共有ができるように、気づいたことはそのつど記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、ケアの順序・優先事項を考慮し、利用者のニーズに対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書の利用や郵便局、買い物の援助などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期又は随時の受診を行っている。緊急時は、家族と連携を図りながら対応している。	入居前から、かかりつけ医のある場合は継続して受診している。遠方からの入居は協力医をかかりつけ医として、家族が付き添う場合でも管理者が受診に付き添い、生活状況を報告し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことや分からないことは必ず看護師に報告する。緊急時は、他施設の看護師の協力も得る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には、本人の情報をしっかりと申し送りし、早期に退院できるよう情報の共有を行う。本人の不安が軽減できるよう、顔見知りの職員が交代で会いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス時に、終末期や緊急時の対応について、本人・家族の意向を確認している。状態が悪くなった時は医師に報告し、ムンテラを行って頂く。	利用開始の早い段階で、本人、家族と重度化や終末期のあり方について話し合い、方針を共有している。重度化、看取り指針を作成している。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、看護師による勉強会を行っている。心肺蘇生の研修には、職員が交代で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難・通報訓練を行っている。運営推進会議の参加者にも、避難訓練に参加して頂いた。	年2回、夜間想定を含む防災避難訓練を実施している。運営推進会議メンバーの参加・協力は得られているが、近隣住民の参加の呼びかけがなされていない。	近隣住民へ呼びかけ、参加・協力体制を整えるように期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいには十分に留意し、尊厳を意識して対応するようにしている。プライバシーにも配慮している。	利用者一人ひとりに応じて、人格を尊重した優しい言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めつけずに、本人の思いを出せるように働きかける。着たい服を自分で選んだり、入浴も本人の希望に沿って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで、その時の状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望に応じて、地域や馴染みの美容室を利用している。化粧をしたり、買い物に行き好みの服が買えるよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かしながら、野菜の皮むきや盛り付け等を一緒に行っている。食事中は音楽を流したり、採光にも気を配っている。	併設の老人ホームから調理した食事が届けられている。職員は、利用者の持てる機能を引き出して盛り付けや配膳を手伝ってもらい、懐かしい童謡を聞きながらゆったりと時間をかけて利用者と一緒に食事が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は必ず確認し、記録している。摂取量が少ない時は代替を出したり、食べたい物を提供している。その時の状況で食形態や食器を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には必ずお茶でうがいをし、食後は口腔ケアを行っている。嫌がられる時は時間を空けたり、職員が交代で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、早めの声掛け・誘導を行っている。尿・便意がなくてもトイレ誘導をしている。	排せつチェック表を活用して、昼間はトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、乳製品を多く摂るようにしている。トイレに行かれた時に腹部マッサージをしたり、ウォシュレットで肛門を刺激し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、入浴日・時間を決めている。時期に合わせて、湯船にゆずやバラ・入浴剤を入れ、季節感が味わえるようにしている。	入浴したくない日は翌日に入ってもらうなど、利用者本位に柔軟に対応している。季節に合わせたゆず湯、バラの花を入れたバラ湯など、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を促したり、就寝時間を決めつけずに本人の様子を観察しながら声掛けしている。薬に頼らず自然に眠れるよう、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は、看護師が行っている。内服が変更になった時は職員に周知し、状態の変化をよく観察するようにしている。気付いたことは看護師に報告し、病院と連携を図りながら調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったレクリエーション・作業を促している。毎日、同じことの繰り返しではなく、気分転換ができるよう、外出の機会を多く取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、外出を多くしている。家族の協力を得て、故郷訪問を行っている。	天気の良い日はホーム周囲の散歩を日課としている。利用者の希望に合わせて、花見や海に出掛けたり、弁当持参でドライブを楽しんだり、家族の協力を得ながら外出できるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも買い物できるように、家族と話し合ってお金を持たせて頂いている。職員が支払わず、本人がお金を出せるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話を掛けたり、手紙を郵便局と一緒に出しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに部屋をアレンジしたり、リラックスできるように音楽をかけたりしている。音や温度、採光等の刺激には気を付けて配慮している。	共用の空間は掃除が行き届き、清潔に保たれている。リビングはソファ、テレビ、ピアノ、利用者の作品が要所に飾られ、訪れる家族もくつろげるように配慮している。ベランダ越しに菜園の大根、ネギなどが育ち、利用者に季節を感じてもらえるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて、くつろいで過ごせるようにしている。仲の良い方同士、お互いの部屋へ行き、話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族へ使い慣れている物や馴染みの物を持ってきて頂くよう依頼している。家族と話し合いながら、部屋作りを行っている。	利用者が使い慣れた家具や調度品、テレビ、家族の写真、仏壇の持ち込みもあり、家族と話し合いながら居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者によって、部屋の戸に写真や名前を貼り、自分の部屋を認識できるようにしている。		